



(2019年度版)
IRC委員会 重量計管理部

重量計(ロードセルタイプ)は 日本セーリング連盟が登録艇のIRC計測の為に、購入、並びに、管理をしている機材である。この為、その使用に際しては、以下に示す貸与ガイド 及び 取り扱いガイドに従い、使用することが求められる。

機材は、3種類(5トン、12トン、20トン)が用意されており、その計測する船体の重量とIRCルールに合わせて使用することが求められる。また これらの機材は 年間に1回、メーカーに返送し、キャリブレーションを行う。

重量計使用ガイド

- 1 重量計の貸与を申し込むには、JSAF会員がweb重量計申込書に、必要事項記載の上申し込むこと。
- 2 管理部は、申し込みを確認してから、機材を宅配便にて送付する。これらの送料は、使用者が負担する。返却の場合も、使用者が梱包の上、使用者の費用負担で返送すること。
また、これらは“精密機器扱い”で送付の事。
- 3 重量計の使用期間は、使用日を含めて7日以内に返送されねばならない。
- 4 重量計を破損、紛失した場合、その修理や、再購入に掛かる費用は、借用申し込み者の負担となる。
重量計管理部は、送付時に作動を確認して送付する。返送時に作動しない場合は、修理費用、また、紛失時には、紛失機材の再購入費用が請求される。
- 5 クレーンや吊り具については、使用者が手配すること。
- 6 重量計の使用に関してIRC委員会の承認があれば 個別に クラス協会、ヨットの造船所やヨットデザイナーに貸し出すことがある。

重量計取り扱いガイド

- 1 重量計は、雨天での使用を禁止する。また、IRCルールにおいても、雨天で行なわれた重量計測は、その数値を使用できない。
- 2 重量計は計測部(ロードセル)と表示部(表示機)が有線で接続されている。計測時には、電線ケーブルや接続コネクターの取り扱いには細心の注意を払うこと。
- 3 重量計は精密機器なので、その取り扱いにも細心の注意を払い、取り扱うこと。
- 4 電源は乾電池での使用になるので、必要の無い時には電源を切る事。
- 5 IRCの重量計測では、少なくとも2回の吊り上げを行い、その計測重量に誤差の無いことと、また 吊り降ろしたときには その数値が“0”に戻ることを確認してから 示された数値を採用すること。
- 6 船体の重量計測においては、重量物を取り扱うことになり、経験が十分にあり、そして国内一般法規を遵守すること。また、クレーン担当者は、資格(玉掛け)を取得した人が行い、細心の注意を払い、事故の無い様に、安全に これを行

上記ガイドを確認上 下記の申込みボタンからお申し込下さい。

お申込みはこちらから

別途、各重量計の構成と使用方法があります。

5トン重量計 構成と使用方法

* 5トン重量計 構成

5トン重量計(ロードセル+ケーブル20m+表示機+格納ケース)。 シャックル2個(オレンジ色)。 リング1個(緑色)。 収納ケース、予備電池。

* 5トン重量計 使用法

- ① 5トンの重量計は、0.75トンから4.5トンまでの艇に使用することができる。
- ② 計器(表示機)のスイッチを入れて、その作動を確認する。作動確認後、一旦スイッチを切る。
- ③ リング(グリーンに着色 内径100mm×200mm)をクレーンのフックに掛ける。
- ④ シャックル(オレンジに着色)をロードセルの上の穴と クレーンのフックに取り付けたリングに通して、取り付ける。
- ⑤ もう一つのシャックル(オレンジ色に着色)をロードセルの下側の穴に通して、取り付ける。
- ⑥ ケーブル(20m)をクレーンに取り付けたロードセルと表示機に接続する。配線の取り扱いには注意。コネクタの保護の為に、配線はロードセル側で、ビニールテープ等で仮固定する事。スイッチを再度入れて作動をさせ、表示をさせる。
- ⑦ 吊り具(カンザシ、スリングベルト等)を吊り下げて、ゼロ表示スイッチを押して記憶させる。
吊り具、ベルトの重量を省く為に船体を慎重に バランスを取りながら吊り上げて、その重量を読み取る。
- ⑧ 電池は表示機に収納されている。スクリューを緩めて、ケースを取り出し、その交換を行う。表示が不安定になっている場合は電圧が下がっている場合が多いので、交換のこと。
- ⑨ 重量計測の作業中に、吊り下ろした状態で 表示部の数値が“0”に戻らない場合は 再度 “0”の設定を行い、最初から手順に従い計測をやり直す

12トン重量計 構成と使用方法

* 12トン重量計 構成

12トン重量計(ロードセル+ケーブル20m+表示機+格納ケース)。
シャックル2個(オレンジ色)。リング1個(緑色)。収納ケース、予備電池。

* 12トン重量計使用法

- ① 12トンの重量計は1.8トンから11.5トンまでの艇に使用することができる。
- ② 表示機とロードセル本体をケーブルで接続し、表示機の電源スイッチを入れ、作動を確認する。コネクタの保護の為に、配線はロードセル側で、ビニールテープ等で仮固定する事。作動確認後、一旦スイッチを切る。
- ③ リング(25トン用 オレンジに塗装 又は 12トン用 グリーンに塗装)をクレーンのフックに掛ける。
- ④ シャックル(オレンジに着色)をロードセルの上の穴と クレーンのフックに取り付けたリングに通して取り付ける。
- ⑤ もう一つのシャックルをロードセルの下側の穴に通して 取り付ける。
- ⑥ スwitchを再度入れて作動をさせ、表示をさせる。
- ⑦ 吊り具(カンザシ、スリングベルト等)を吊り下げて、表示機の“ゼロ表示スイッチ”を押して記憶させる。(吊り具の重量を省くことになる)
- ⑧ 船体を慎重に バランスを取りながら吊り上げて その重量を読み取る。
- ⑨ 重量計は電池を使用しており、表示機に入っている。表示が不安定な場合は電池を交換のこと。
- ⑩ 重量計測の作業中に、吊り下ろした状態で 表示部の数値が“0”に戻らない場合は 再度 “0”の設定を行い、手順に従い計測をやり直すこと。

20トン重量計 構成と使用方法

* 20トン重量計 構成

20トン重量計(ロードセル+ケーブル20m+表示機+格納ケース)。
シャックル2個(オレンジ色)。リング1個。収納ケース、予備電池。

* 20トン重量計使用方法

- ① 20トンの重量計は3トンから19.5トンまでの艇に使用することができる。
- ② 表示機とロードセル本体をケーブルで接続し、表示機の電源スイッチを入れ、作動を確認する。コネクタの保護の為に、配線はロードセル側で、ビニールテープ等で仮固定する事。作動確認後、一旦スイッチを切る。
- ③ リング(オレンジに塗装 25トン用)をクレーンのフックに掛ける。
- ④ シャックル(オレンジに着色)をロードセルの上の穴とクレーンのフックに取り付けたリングに通して取り付ける。
- ⑤ もう一つのシャックルをロードセルの下側の穴に通して取り付ける。
- ⑥ スwitchを再度入れて作動をさせ、表示をさせる。
- ⑦ 吊り具(カンザシ、スリングベルト等)を吊り下げて、表示機の“ゼロ表示スイッチ”を押して記憶させる。(吊り具の重量を省くことになる)
- ⑧ 重量計は電池を使用しており、表示機に入っている。表示が不安定な場合は電池を交換のこと。
- ⑩ 重量計測の作業中に、吊り下ろした状態で表示部の数値が“0”に戻らない場合は再度“0”の設定を行い、手順に従い計測をやり直すこと。